

デジタル教科書構成案／地理的分野

第3部 第2章 日本の地域的特色

第2章の問い 日本の自然環境や人口、産業には、どのような特色があるのだろうか。

評価規準例

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日本の地域的特色を、自然環境や人口、資源・エネルギー、産業、交通・通信の視点から、写真、図版、地図、雨温図などさまざまな資料を適切に選択して読み取り、理解している。	日本の自然環境や人口、資源・エネルギー、産業、交通・通信などの地域的特色が、どのように変化し、どのような課題を抱えているのか、多面的・多角的に考察し、表現している。	自然災害への対応や人口減少に伴う少子高齢化など、身近な地域や生活との関わりに着目して、日本の地域的な課題について、主体的に追究しようとしている。

展開例

項目	学習課題	本時の目標	指導のポイント
1. 山がちな日本の地形	日本の国土には、どのような地形的な特色があるのだろうか。	(1) 日本列島は国土に占める山地の割合が高く、フォッサマグナを境に日本の地形の特色が東西で異なっていることを理解できる。 (2) 日本列島の地形の特色を、環太平洋造山帯との関わりから考察できる。	・日本列島は山地の割合が高く、フォッサマグナを境に日本の地形の特色が東西で異なっていることを理解させる。 ・日本列島で地震や火山が多い理由を、環太平洋造山帯との関わりから考察させる。
2. 川がつくる地形と海岸や海洋の特色	日本の平野や海岸、日本を取り巻く海には、どのような特色があるのだろうか。	(1) 日本は、周囲を海に囲まれて多様な海岸線が見られることや、日本近海の地形や海流の特色を理解できる。 (2) 川がつくるさまざまな地形の特色を理解し、どのような土地利用がなされているのか考察できる。	・日本を取り囲む海岸線の特色と、大陸棚と海溝の違いや暖流と寒流の違いを理解させる。 ・平野や盆地のほか、扇状地や三角州、台地など川がつくる地形の特色を理解させ、どのような土地利用がなされているのか考察させる。
3. 日本の気候	日本各地の気候を比較すると、地域によってどのような違いがあるのだろうか。	(1) 日本の気候の特色を世界の気候帯との関わりから理解できる。 (2) 日本の気候を北と南、太平洋側と日本海側、内陸部と沿岸部などの視点から区分し、それぞれの気候区分の特色を雨温図から考察できる。	・温帯と亜寒帯に属する日本の気候の特色を、四季の違いに着目して理解させる。 ・地域により気候が異なる理由を、気候区分図や雨温図などを活用させ、地形や緯度、海流、季節風などから多面的・多角的に考察させる。
4. 日本のさまざまな自然災害	日本で発生する自然災害は、地形や気候とどのような関係があるのだろうか。	(1) 地震や火山による災害の特徴を理解し、日本では地震や火山の災害が多い理由を考察できる。 (2) 日本は台風や大雨、冷害、大雪などの気象災害が多いことを理解し、気象災害が多い理由を考察できる。	・日本は地震や火山による災害のほか、台風や大雨、冷害、大雪などの気象災害が多いことを調べ、まとめさせる。 ・日本で地震や火山による災害や気象災害が多い理由を、環太平洋造山帯との関わりや四季が明瞭な気候など、日本の自然環境の特色から多面的・多角的に考察させる。

5. 自然災害に 対する備え	国や地域は、自然災害を防いだり、被害を少なくしたりするために、どのような工夫をしているのだろうか。	(1) 自然災害の発生を防ぐことができないことに気づき、防災や減災の必要性について理解できる。 (2) 災害への対策について、国や地方公共団体が行う取り組みのほかに地域や個人で行う対策について考察できる。	・自然災害への備えは、施設や設備によるハード面の対策と、情報の共有や防災訓練などのソフト面での対策が必要なことを理解させる。 ・災害への対策は、自助、共助、公助の観点から、相互に補完し合って行われなければならないことを考察させる。 ・さまざまな自然災害から身を守るために、自分の地域で必要な対策や準備について、主体的に考察させる。
6. 日本の人口	日本の人口分布や人口構成は、どのように変化してきたのだろうか。	(1) 日本の人口分布の特色と、人口が集中する地域と少ない地域の課題を理解できる。 (2) 増え続けてきた日本の人口が減少に転じ、少子高齢化が進んでいる理由を考察できる。	・日本の人口は三大都市圏に集中していることを理解させ、人口減少により、地域社会の維持が困難になっている地域が増えていることを理解させる。 ・子育てと仕事の両立が難しいことを背景に、出生率が低下する一方、食生活の改善や医療技術の進歩などにより高齢化が進んでいることを考察させる。
7. 日本の資源・エネルギーと電力	日本では、資源を有効に活用するために、どのような取り組みが行われているのだろうか。	(1) 日本の資源やエネルギーの自給率が低いことを理解し、資源・エネルギーの安定確保のためにどのような取り組みが行われているか理解できる。 (2) 日本の発電量の内訳が変化してきた理由とその課題を考察できる。	・日本は資源やエネルギーの自給率が低いため、資源のリサイクルや消費電力の少ない家電製品の開発、電気自動車の普及など、省エネルギーの取り組みを行っていることを理解させる。 ・日本では、原子力発電の割合が減少し、火力発電に依存するようになった理由と火力発電に依存することから生じる課題について考察させ、表現させる。
8. 日本の農業・林業・漁業とその変化	日本の農業・林業・漁業には、どのような特色や課題があるのだろうか。	(1) 日本では、狭い耕地を有効に利用し、地域によりさまざまな農業が行われていることを理解できる。 (2) 日本の農業・林業・漁業に共通する課題について考察できる。	・日本では稲作や畑作のほかに、地形や気候に合わせた果樹の栽培が行われているなど、地域によりさまざまな農業が行われていることを理解させる。 ・輸入農産物の増加や後継者不足と高齢化など、日本の農業・林業・漁業に共通する課題について考察させ、表現させる。

9. 日本の工業と その変化	日本の工業にはどのような特色があり、工場の立地はどのように変化してきたのだろうか。	(1) 日本の工業地域は、臨海部から内陸部や大都市周辺に変化してきていることを理解できる。 (2) 企業の海外移転に伴う産業の空洞化や、安い工業製品の輸入の増加など、日本の工業の課題を考察できる。	・日本の工業は、軽工業から重化学工業、先端技術産業へと発展してきたことを理解させる。 ・日本の工業地域の分布と移り変わりを工業の変化と関連させて理解させる。 ・日本の企業の海外移転による産業の空洞化や、アジア諸国からの安い工業製品の輸入の増加など、日本の工業の課題を考察させる。
10. 日本の商業・サービス業	日本の産業の中心である商業やサービス業には、どのような特色や変化がみられるのだろうか。	(1) 日本の経済の発展に伴い、産業別人口に占める第3次産業の割合が高くなっていることを理解できる。 (2) パソコンやインターネットの普及により、日本の商業やサービス業がどのように変化しているか考察できる。	・日本の経済発展や都市部への人口集中、生活スタイルの変化などに伴い、商業やサービス業など、第3次産業が発展してきたことを理解させる。 ・商業ではコンビニエンスストアや通信販売などが、サービス業では情報や医療・福祉サービスを提供する業種などが拡大していることを考察させる。
11. 日本の交通網・通信網	交通網や通信網が発達したことで、日本と世界や国内の地域間の結び付きはどのように変化したのだろうか。	(1) 輸送手段や交通網の発達により、世界と日本の結び付きが深まり、人々の生活が変化していることを理解できる。 (2) 交通網や通信網の発達に伴う、利便性の向上と問題点について考察できる。	・航空路線の拡大に伴って出入国者が増加する一方、国内では道路網の整備によって、自動車の割合が増えてきたことを理解させる。 ・交通網や通信網の発達によって結び付きが強まることによる、利点や問題点を考察させる。
12. さまざまな地域区分	いくつかの視点を基に日本を区分すると、どのような特色がみえてくるのだろうか。	(1) 日本はさまざまな視点から地域区分することができることや、地域区分の目的と利点を理解できる。 (2) 主題図を基に自ら地域区分を行い、そこから読み取れる日本の特色を説明できる。	・方言や食文化などさまざまな視点から日本を区分することができることを理解させ、地域を区分することの目的や利点を理解させる。 ・さまざまな主題図を基に自ら地域区分をさせ、そこから読み取れる日本の特色を説明させる。